

2025年度

国語

最初に、以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 問題冊子は監督者の指示があるまでは開かないで下さい。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。問題冊子は受験番号のみを記入して下さい。
3. 試験問題の内容に関する質問には応じません。それ以外の用事があるときは、手をあげて下さい。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出て下さい。
5. 問題冊子および解答用紙は持ち帰らないで下さい。
6. 字数制限のある問題については、句読点なども1字として数えるものとします。

受験 番号	
----------	--

【一】 次の各問いに答えなさい。

問一、次の①～⑥の傍線部のカタカナを漢字に直し、漢字には読みがなを書きなさい。

- ① 一週間ほどドルスにする。
- ② 今は少しキヨリを置きたい。
- ③ ガイロジユの伐採に反対する。
- ④ オダやかに笑う。
- ⑤ 辛辣な批評を受ける。
- ⑥ この小説は情景のビヨウシヤが優れている。

問二、次の中から「傍若無人」と似た意味を表すものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、野放図
- イ、味をしめる
- エ、厚顔無恥
- オ、知らぬが仏
- ウ、肩で風を切る

問三、次の（ ）には「そのときの状況に合わせて適切な手段をとる」という意味の四字熟語が入る。その四字熟語を漢字で

答えなさい。

文化祭の準備が遅れていることがわかり、リーダーが（ ）に指示を出し、事なきを得た。

問四、次の（ ）に適切な漢字二字を入れ、慣用句を含む文として完成させなさい。

- ① 悩んでいたが、母に（ ）を押され、受験を決意した。
- ② 最近の物価高騰は（ ）知らずだ。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「茜が『ドルフィンキッズスイミング』をやめたないのん分かるわよ」

ハンドルを握るママは、妙に優しい声を出した。

「でも、これからもシンクロを続けるんやったら、他所に移った方がええって、先生からも勧められたんよ。ママの言う意味、分かるよね？」

助手席で俯いていた茜は、1 頷いた。

「だったら決まり。ママ、後からお世話になった先生方にご挨拶してくるからね」

どのみち、最初からそのつもりだったんだ。だって、後部座席には菓子折りの入った紙バッグが置かれてる。大好きだった先生の顔が浮かび、（i）が熱くなる。

何で、そんな大事なことを勝手に決めるん？

こぼれた涙を手の甲で拭いていると、ママがびっくりしたような声を出した。

「何も泣かんでもええやん。大袈裟な……。そら、最初は寂しいかもしれへんわよ。でも、水葉ちゃんも一緒やし、新しいところでも楽しい事はいっぱいあるわよ」

水葉ちゃんというのは、一緒にシンクロナイズドスイミングを習っているお友達だ。自宅から近い市民プールの子供スポーツ教室、「ドルフィンキッズスイミング」で週に二回、一緒に泳いでいる。学校は違うけど同い年。二人とも一人っ子で、一緒に習い事に通ってくれるお姉ちゃんや妹がいないのもあって、自然と仲良くなった。

水葉ちゃんは明るくて、お喋りも楽しい。大好きなお友達だ。

だから、新しいスクールに行くのは一人じゃなく、水葉ちゃんも一緒だと聞いて安心した。先生や他の友達と別れるのは寂しいけど、水葉ちゃんとだったら我慢できるかもしれない。

やがて、駐車場の標識が見えてきて、ママは鼻歌を歌いながら、ハンドルを左に切った。

機械から吐き出されたチケットを受け取ると、ゲートが開く。ママはゆっくりと車を走らせ、ショッピングモールの建物を見上げる屋外駐車場に車を停めた。

空いている場所を探す途中、真つ赤なベンツが停まっているのが見えた。水葉ちゃんのお母さんの車だ。

「さすが神崎さん。もう来てはるわ」
車をバックさせながらママが呟く。

「あーちゃんっ！」

車を降りると、ピンクのビニールバッグを手にした水葉ちゃんが、ベンツの助手席から飛び出してきた。そして、その勢いのまま、こちらに向かって駆けてくる。

少し遅れて車から降りた水葉ちゃんのお母さんが、「危ない！ 走らないで」と声をかけたら、その途端に水葉ちゃんは派手に転んだ。

水葉ちゃんは突っ伏した姿勢のまま、「ヒーン」と情けない声で泣き出した。

「あらあら」

ママが慌てて駆け寄ったのと、水葉ちゃんのお母さんが水葉ちゃんを抱き上げたのが同時だった。

「あ、水葉ちゃん！ 膝に血が……」

膝小僧が丸く擦りむけ、血が滲んでいる。

水葉ちゃんは、しゃくりあげながら、大粒の涙をこぼした。

「もう、慌てるから……」

栗色の髪を綺麗に巻いて、動くたびにいい匂いがする水葉ちゃんのお母さんは、チェーンがついたバッグからハンカチを取り出した。きちんとアイロンがかけられた、レースと刺繍が入った真つ白なハンカチが目眩しい。

「神崎さん。良かったら、これ使って」

いつもバッグに入れているティッシュと絆創膏を差し出しながら、ママが言う。

「まあ、ありがとうございます」

水葉ちゃんのお母さんはハンカチをバッグにしまうと、ティッシュを受け取った。ママが渡したのは、若い男の人が駆で配っているような、広告が入ったポケットティッシュだ。ちよつと恥ずかしい。

「この子ったら、今日は朝からずっと大はしゃぎで、もう小学校五年生なのに、全然落ち着きがなくて……。水葉、残念だけど、今日の練習はお休みしようか？ 傷口からばい菌が入ったら大変……」

それまで泣いていた水葉ちゃんが、はっと顔を上げた。

「大丈夫！ これぐらい平気や！」

② バネ仕掛けのように立ち上がると、水葉ちゃんはお母さんを睨んだ。

「ここからは、あーちゃんと一緒に行く。お母さんは後から来て！」

そして、強く手を掴まれた。

「行こ！ あーちゃん」

モールの中は人が多かったけど、水葉ちゃんは 2 人混みを縫って歩いて行く。

新しく通う事になった「スイミングアカデミー大阪」は、都心のショッピングモールに入っているスポーツ教室のプールで練習が行われている。隣接する公園にはスポーツランド森ノ宮という施設があつて、そこでは足がつかないぐらい深いプールで大会の為の練習をするという。

茜は首が据わった頃にベビースイミングを始めていて、小さい頃は足が届かないまま泳いでいたらしいけど、その時の事は覚えていない。だから、「足がつかないぐらい深いプールって、一体どんなプールなんだろう」と、怖いような、わくわくするような気持ちになった。

「ドルフィンキッズスイミング」では、最初は競泳だけやっていて、小学校三年生からシンクロナイズドスイミングを掛け持ちしていた。そして、小学校五年生の二期からシンクロに専念する為に、全国大会にも出場しているクラブ「スイミングアカデミー大阪」に移籍する事になったのだ。水葉ちゃんと一緒に。

「ほら、私がお揃いやね」

水葉ちゃんに促されて見ると、服屋さんの店先に置かれた大きな鏡に、自分達の姿が映っていた。お団子にした髪にカラフルな色のパーカーは、茜はピンクで、水葉ちゃんは薄い紫。黒いレギンスにクロックスのサンダルを履いているのまで一緒だ。

スポーツ教室の受付の所でママを待っていると、中から出てきたおばさん達のグループがこちらを振り返った。

「かーわいつ。バレエ教室の子らかな？」

「ほんま、かいらしい。^{注2} アイドルみたいやわ」

アイドルみたい。

3 頬が熱くなり、胸がドキドキしてきた。そんな事、今まで言われた事なかった。

ママが受付で手続きをした後、係の人に更衣室の場所を教えてもらった。更衣室は知らない子ばかりだったけど、前に利用していた市民プールよりずっと広くて、綺麗だった。

「知ってる？ あーちゃん。今度、シンクロの名前が変わるのん」

自宅から持ってきた飲み物をストローで吸い上げながら、水葉ちゃんが言う。

「え、知らない」

「『アーティスティックスイミング』になるんやって」

ずっとシンクロ、シンクロって呼んでいたから、聞きなれない名前に「長いし、面倒くさい」と感じた。

「ほんなら、何て呼ぶんやろ？」 『アーティス』とか？」

「うわっ、きっしょ」

二人でわっと声を上げ、ゲラゲラ笑う。

「『アースイ』ってどう？」

水葉ちゃんが、そんな提案をした。

アースイ。

アースイ。いいかもしれない。

二人で「アースイ、アースイ」と言いながら水着に着替え、更衣室から繋がっているプールに向かった。

「あーちゃん。私はオリンピックに出たい」

プールサイドに入る前に、シャワーを浴びながら水葉ちゃんが言った。

「え、オリンピック？ 水葉ちゃん凄い。頑張って」

「あーちゃんも一緒やで」

③ 水葉ちゃんの言葉に心が揺れた。

私がオリンピック？

前回のリオデジャネイロオリンピックでは、日本のシンクロナイズドスイミングが銅メダルを取った。逆立ちのリフトも、ラ

ストの二十秒以上続く足技も本場に凄くて、何で息継ぎしないで、あんなに長い時間動けるのかと驚いた。

私があの中の一人になる——。

一人だったら不安だけど、水葉ちゃんが一緒ならできそうな気がしてきた。

「分かった。ほんなら私もオリンピックを目指す」

「わあ、やったー！ 絶対やで。途中でやめるのなしやで」

「うん。やめへんよ」

「やった！ はい」

水葉ちゃんが腕を差し出したから、茜も同じようにした。二人の腕が絡み合う。日に焼けて赤くなった肌に、

走る。

「水葉ちゃんと一緒にオリンピックに行けますように！」

「あーちゃんと私が一緒に、オリンピックに……」

急に黙り込んだかと思ったら、水葉ちゃんが大声を出した。

④ 「ええ事、考えた！」

「え、何？ 何？」

「今日から私の事、水葉ちゃんやなくて、『スイちゃん』って呼んで！ 水葉の水は、音読みしたら『すい』やし」

「何でー？ 変やよ。そんなん」

「オグシオて知ってる？」

バドミントン元日本代表選手で、女子ダブルスペアの小椋久美子おぐらくみこと、潮田玲子しおたれいこの愛称だ。

「私らもペアで、『アースイ』って呼んでもらうねん」

「あーちゃんとスイちゃん、『アースイ』？ 水葉ちゃん、何かしよいわ」

「水葉ちゃんとちゃう！ スイちゃんや」

「どうやら本気で言ってるらしい。こうなると、水葉ちゃんは引かない。」

「ほら、呼んでみて。スイちゃんって」

「……スイちゃん」

「声が小さいっ！」

「はいはい。初めまして！ スイちゃん！」

笑いながらプールサイドに足を踏み入れると、小さい子供達がプールの中で並んでいた。両手を横に広げた恰好かっこうで。これから、

音楽をかけて練習するようだ。

電子楽器が作り出す効果音が流れると、子供達はその場でくるくる回り始めた。

二人揃って反応していた。

⑤ 「リトルマーメイド！」

「アリエルの歌！」

二年前、小学校三年生の時に水葉ちゃん、いや、スイちゃんや他の子供達と一緒に、初めて人前で演技した時の曲、注4 Qindivi の

「Part of Your World」だった。

その時の自分達と同じように、目の前にいる子達は人魚姫・アリエルになりきってポーズを決めたり、リズムを取りながら泳いだり、集まって輪になったりしている。

「リトルマーメイド」は、元はデイズニーのアニメだったのが舞台になり、日本では劇団四季が上演している。^{注5} お母さん達がチケットをとってくれて、スイミングクラブの子達と一緒に、東京まで舞台を観^みに行つた。

茜達が演技する時に使っていた「Part of Your World」は、日本人クリエーターが英語で歌う楽しいダンスナンバーだったが、舞台の曲は全然違つた。歌詞も日本語で、そこで初めて歌詞の内容を知つた。

アリエル役的女優さんが歌いながらふわっと浮き上がり、宙を泳ぐシーンでは、思わず「わあっ」と声が出た。子供達は大喜びだった。でも、お母さん達はハンカチで目を拭っていた。別に悲しい歌じゃないのに変なの。

人間の世に行つてみたい。

行つて、そこで歩いたり、踊ったり、散歩もしたい。

自由に生きたい。

人魚姫の夢と希望を歌つた曲で、何でママや他のお母さん達が泣いていたのか分からなかつたし、大人が人前で泣いていたのが衝撃的で、その理由も聞けなかつた。

「めっちゃ懐かしい。あーちゃん、覚えてる?」

見ると、スイちゃんが音楽に合わせて振りをつけていた。

茜も一緒に右腕を上げ、曲げて、伸ばした。ここは背泳ぎで進んだ後、天上を突くように右脚を上げて、後ろにくるっと回るところだ。そんな脚の動きも腕で表現する。

「次! 本番であーちゃんが滑つたところ!」

両手を広げてジャンプし、その場で一回転しながらスイちゃんが言う。

「あーん、やめて。それ、言わんとつて」

茜は緊張していたのか、プールの底に着地した時に足を滑らせて、バランスを崩してしまったのだ。それで頭が真っ白になり、その後、自分がどうやって動いたのか覚えていない。後で動画を見ると、無意識のうちに手足を動かしていたようだけど、みんなから一拍遅れていたり、動きがスローモードだったりで、それが面白かったと未だにスイちゃんにからかわれる。

「ゾンビみたいやって、先生に言われたやん」

その時の茜の手を振り、スイちゃんが真似た。

「やめてやー、しつこい！もうっ、怒るで！」

軽く突いたつもりが、スイちゃんは後ろに転んだ。

「痛っ！何も押さんでもええやる！」

すぐに謝るつもりだったのに、立ち上がったスイちゃんがドンと押し返してきたから、意地になってしまった。

「そっちこそ！」

突き飛ばし合いをしていたら、マイクで「こらあ！」と怒鳴られた。

びくりとして辺りを見回すと、プールの向かい側に怖い顔をした女の先生がいて、こちらを睨んでいた。

「その二人、どいてなさい！邪魔！」

あまりの剣幕に半泣きになる。そして、スイちゃんと身体からだをくっつけ合い、こそこそとプールサイドの隅へと移動した。

(蓮見恭子『人魚と過ごした夏』(光文社)より)

注1・ベント……ドイツのメーカーの自動車。高級車とされている。

注2・かいらしい……かわいらしい。

注3・リオデジャネイロオリンピック……二〇一六年、ブラジルのリオデジャネイロで開催された夏季オリンピック。

注4・Qindivi……音楽クリエーター集団の名称。

注5・劇団四季……日本の代表的な劇団。

問一、

1

4

に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

ア、かつと イ、ぎろつと ウ、こくんと エ、ずんずんと オ、ちりつと カ、ぶんぶんと

問二、波線部 a・b の本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a 「どのみち」

ア、わかつていたが

イ、いずれにしても

ウ、疑うまでもなく

エ、どう反対しても

オ、簡単に考えると

b 「劍幕」

ア、過保護な考え

イ、的確な身振り

ウ、堅苦しい様子

エ、投げやりな姿

オ、荒々しい態度

問三、(i) に入ることばとして適切なものを漢字二字で答えなさい。

問四、 傍線部①「水葉ちゃんのお母さんは、チェーンがついたバッグからハンカチを取り出した」とあるが、水葉のお母さんの

ハンカチと対照的に示されているものを、本文中から三十文字以上三十五文字以内で探し、初めの五字を抜き出しなさい。

問五、 傍線部②「バネ仕掛けのように立ち上がると、水葉ちゃんはお母さんを睨んだ」とあるが、水葉がこのような態度をとっ

た理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、泣き続けていることで茜を待たせっていると気づき、何事もないようすを見せて早く行こうと思ったから。
- 2、新しいスクールを楽しむにしているため、練習を休もうというお母さんの提案は受け入れられないから。
- 3、はしゃいでいたことを話されたので腹が立ち、お母さんが余計なことを言うのを止めようと思ったから。
- 4、自分のことを心配してお母さんが一緒に来ようとしていると感じ、元気なところを見せて断りたいから。
- 5、落ち着きがないと茜の前で言われたことが心外で、お母さんにも茜にもしつかりした姿を示したいから。

問六、 傍線部③「水葉ちゃんの言葉に心が揺れた」とあるが、このときの茜のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、ずっと水葉を応援するつもりでいたが、一緒にオリンピックを目指そうと言われ、ライバル関係になるのではと不安になっっている。

2、オリンピックという言葉に驚き、誘われたことに戸惑ったが、大人になっても水葉と一緒にいるための口実になると気づいている。

3、水葉の言葉を聞いてすぐにオリンピックを目指そうと思ったが、銅メダルの選手たちを思い出し、自分には無理だと諦めている。

4、水葉ならオリンピックに出られると思っていたので、一緒に目指せば自分もオリンピック出場が実現するだろうと考え始めている。

5、オリンピックなど考えたこともなかったし、状況を想像すると心もとないが、水葉と一緒にならば目指してみたいとも感じている。

問七、 傍線部④『ええ事、考えた！』とあるが、水葉はどのようなことを考えたのか。四十字以内で書きなさい。

問八、 傍線部⑤『リトルマーメイド』『アリエルの歌』とあるが、これは茜にとってどのような曲であるかを説明した次の文の空欄【1】・【2】に入ることを、【1】は十三字で、【2】は十二字でそれぞれ本文中から抜き出さない。

シンクロナイズドスイミングを掛け持ちしてから、【1】であり、また、【2】ことに驚きを覚えたと記憶と結びつく曲。

問九、本文中から読み取れる、茜と水葉についての説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、ぶつかり合うこともあるもののすぐにその場を収められるくらい、茜は水葉のことを理解している。
- 2、将来の夢や相手に対する不満なども遠慮なく話す関係で、二人とも長く付き合いたいと願っている。
- 3、茜は明るい水葉のことが大好きで、一緒にいることで心細さをなくしてくれる存在だと感じている。
- 4、水葉には茜のことを困らせる自分勝手なところもあるが、茜はそれすら水葉の魅力だと思っている。
- 5、大切な友達だと認め合って、共通の夢を持つことでさらに自分たちの実力を高めようと考えている。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

対話(dialogue)とはそもそもなんだろう。それは会話(conversation)や議論(discussion)とはどう違うのだろうか。

「英会話」とはいうが、「英対話」とはいわない。「会話が弾む」とはいうが、「対話が弾む」「議論が弾む」とはいわない。「議論に勝つ」とはいうが、「対話に勝つ」「会話に勝つ」とはいわない。

まず、^①会話をみていこう。

「会話」は知り合い同士、またはたまたま居あわせた者同士の気楽なおしゃべりをさす。しゃれた会話、楽しい会話というように、「会話がスムーズに進む」とは、なめらかで、よどみのない言葉のやりとりをいう。「会話が弾む」とは、ときどきジョークなどもまじえて、とぎれることなく、キャッチボールのように言葉のやりとりがつづくときだ。

それは音楽でいえばハーモニーだ。互いに協力して加速したり、ゆるめたり、盛りあげたりする。それによって関係性が深まり、親密度が増す。そのためにはそれぞれの楽器、1キャラが決まっていたほうがいい。

キャラがはっきりしていれば、期待される役回りもおのずと決まり、コミュニケーションがしやすくなる。リーダーシップをとる役、盛りあげ役、雰囲気づくりの役など、オーケストラのようにそれぞれの楽器の役回りが決まっていれば、ハーモニーは生まれやすい。

そのもっともシンプルな形が、漫才におけるボケとツツコミだ。ボケが世間的な常識から外れたことをいい、ツツコミが常識や論理の側からそのまちがいを指摘する。ボケは放っておくと間延びしてしまう。そこにすかさず相手が突っこむことでリズムや笑いが生まれる。会話が弾むときというのは、知らず知らずのうちにボケとツツコミのような緊張と弛緩しかんのリズムが生まれている。

一方、「議論」は両方とも《 X 》役である。特定のテーマをめぐるって、互いの主張をぶつけあい、相手の主張についての疑問点を問いただす。会話とちがって、ただ弾めばいいというものではなく、なんらかの結論に到達することが求められる。さらに、相手に自分の正しさを認めさせ、勝ち負けを決することを目的とするのが「討論(ディベート)」である。

たとえば、ツイッターなどSNSの世界はツツコミであふれている。だが、その多くは議論になっていない。議論や討論では、自分の主張を裏づける根拠を明示して、話を論理的に展開することが求められる。そのためには、自分が使っている言葉の意味を明確にするとともに、相手が言葉にこめている意味をも理解する必要がある。しかし、SNS上ではたんに相手のささいな言葉尻をとらえた（i）とりに終始しがちだ。

ちなみに、SNSではボケとツツコミの関係はあまり見られない。ボケとツツコミは互いが知り合いであったり、同じ場を共有しあった者同士であるからこそ成立する。匿名で、互いをよく知らない者同士のやりとりではボケとツツコミのようなかけ合いは生まれにくい。

2 「対話」とはなにか。会話は知り合い同士や、たまたま居あわせた人のあいだでなされるおしゃべりであると述べた。それに対して、価値観がちがう者同士で交わされるのが対話だ。また、議論や討論とちがうのは、かならずしも結論を出したり、どちらが正しいかをはっきりさせることを目的としない点だ。

会話がどちらかといえば互いの共通点を軸として話が展開していくのに対して、対話は互いのちがう点を軸として話が進む。同じものを見ていても、相手には見えていて、自分には見えていないものがある。また、自分には見えていても、相手には見えていないものがある。互いが見ている世界のちがいに注目して、それをいっしょに探究していこうとする姿勢でなされるのが対話だ。

たとえば会話が弾んでいても、どこか違和感をおぼえることがある。キャラに徹して、自分の役回りを演じていけば、会話はスムーズに進み、楽しい雰囲気にはなる。場の雰囲気をこわさないために、愛想笑いをしたり、よけいなことをいわないように口をつぐんだりすることもあろう。 **3**、一方でなにか自分の中でスルーされているものがあり、その言葉にできない思いが胸の中に沈殿していく。そんな経験はないだろうか。

② 極端な例だが、たとえば、部屋の中で友人たちと話しているとき、部屋の隅に一頭のゾウがいるのを目にしたとしよう。冷静に考えれば、部屋の中にゾウなどいるはずがないことはあなたにもわかっている。まわりの人たちもなにもいわないので、見えているのは自分だけなのだろうとあなたは思う。

「ゾウがいる！」などと口にしたら、変に思われるだろうから、あなたはゾウなど見えないふりをしておしゃべりをつづける。たいいてい会話はそのやっつけづく。みなそれぞれに視界の中にゾウやカモシカやイノシシがいるのかもしれない。でも、そのことに気づかぬふりをして、会話をつづけるうちに、自分の中のゾウが見えなくなっていくのだ。

けれども、自分の中のゾウの存在感が大きくなりすぎて、がまんできず「この部屋にゾウがいる」と口にしてしまったとしたら、どうだろう。一瞬、シーンとなるかもしれない。

4 そのままスルーされてしまうかもしれない。

会話を中断したり、とぎれさせたりすることはハーモニーを崩してしまう。しかし、対話はちがう。対話は、むしろとぎれたり、隙間があいたりするところからはじまる。

対話的姿勢とは、たとえ相手の言葉が自分の理解を超えていたとしても、それを相手の心の現実として、そのまま受けとめる態度だ。

「えっ、ゾウが見えるんだ！」「どのへんに？」「どのくらいの大きさ？」「どんな様子？」といったように、相手にしか見えていない世界に関心を寄せる。それを自分の常識の物差しで判断したり評価したりせず、まずは相手にとってリアルなものとして受けとめようとする。それが対話的姿勢だ。

世界が多様化し、さまざまな価値観をもった人たちがいる中では、対話的姿勢は重要だ。そのためにまず必要なのは、「ゾウがいる」といつても否定されたり、スルーされたりしない安全な場である。対話には、なにかの役割を担ったり、キャラを演じたりしなくても、安心してそこにいられるような場が必要なのだ。

弾むような会話は、音楽でいえばハーモニーにたとえられると述べた。ハーモニーはそれぞれの役割をもった声が重なりあつてつづいていく。とぎれなく、隙間なくつづきながら、あるメインとなる旋律を盛りあげていく。いわばシンフォニー（交響曲）のようなイメージだ。

③ それに対して、対話はしばしばポリフォニー（多声音楽）にたとえられる。ポリフォニーとは、それぞれの声のパートが、独立した旋律をもち、どのパートも対等な重要性をもって重なっていく音楽様式だ。主旋律があるわけではなく、どこに耳を澄ますかによって、音楽はちがって聞こえてくる。

それは、たとえばアフリカのジャングルに暮らすピグミーと呼ばれる人びとの音楽などを聴くとイメージしやすいかもしれない。「密林のポリフォニー」とも呼ばれるピグミーの合唱は、別々のリズムの歌を即興的に重ねていく独特の音楽だ。

初めてピグミーの合唱を聴いたとき、なんて自由なんだろうと思った。ふつう音楽は洗練されればされるほど、ハーモニーをこわす音やノイズのように聞こえる音が排除されていく。しかし、ピグミーの合唱は、つぶやき、くしゃみ、独り言、背景に聞こえる虫の音までもが出入り自由で、互いを許容しあっている。複雑なリズムの重なりはあるのだけれど、それがぴったりと組みあわさるのではなく、無数の隙間がある。

それはピグミーたちの生活の場であるジャングルを満たす動物や鳥や虫の音が重なって聞こえるさまに似ている。主旋律があるわけではなく、それぞれの生き物が、自分はこのにいとアピールしている。それぞれの生き物に生きられる場所があり、それぞれの声が響く場所がある。互いに排除しないし、一体化もしない。それはまさに対話の空間だ。

対話がよくて、会話や議論がよくないというのではない。会話がふさわしい場もあるし、議論や討論が必要な場もある。でも、人と人との言葉のやりとりが、会話や議論だけになってしまうと、その中では伝えられない思いが行き場をなくしてしまう。

対話ができる空間とは、自分が感じている違和感を安心して表明できる場のことである。共通点を確かめることによって安全を得るのではなく、ちがっていても安全であることを確認する場だ。

とはいえ、対話的空間をつくるのは、けっしてかんたんではない。国家間の対立や紛争の調停にあたって「対話が重要だ」とよくいわれる。互いの関係性が固定化する前の、小さなひっかけや漠然とした違和感があるという段階でこそ対話は力を発揮する。人は生きていくうえで対話的空間にずっととどまれるわけではない。不本意なことを受け入れなくてはならないこともある。どっちが正しいかを決めなくてはならないこともある。それによって傷つくこともある。

しかし、傷つかないために対話をするのではない。むしろ逆である。互いが安全に傷つくためにこそ対話がある。人は傷つくことなしには生きられない。生きるとは傷を受け、そこから回復することのくりかえしにほかならない。傷がとり返しのつかないほど深くないようにするためにこそ対話をつづけるのである。

（田中真知『風をとおすレッスン』（創元社）より）

問一、

1

4

に入ることをもととして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

- ア、あるいは イ、しかし ウ、それでは エ、だから オ、なぜなら カ、つまり

問二、二重線部 a・b と同じ用法のものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a 「で」

- ア、この店はいつも静かで気持ちが落ち着く。
イ、できるだけ書籍で調べるようにしている。
ウ、彼が所属しているのは囲碁将棋部である。
エ、昨日から降り続いていた雨がやんできた。
オ、なんでもないことを大げさに話している。

b 「まで」

- ア、今夜は九時まで勉強する予定だ。
イ、都合が合わなければ断るまでだ。
ウ、学校から駅までは十分で行ける。
エ、取り急ぎお礼までで失礼します。
オ、校長先生にまでで絵を褒められた。

問三、波線部 A・B の本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

A 「おのずと」

ア、偶然に

イ、自然に

ウ、突然に

エ、必然に

オ、未然に

B 「物差し」

ア、限界

イ、役割

ウ、範囲

エ、基準

オ、土台

問四、(i) に入ることばとして適切なものを答えなさい。

問五、本文には次の一文が抜けている。どこに入れたらよいか。この直後にくる五字を本文中から抜き出しなさい。

しかし、実際には、互いの利害関係や、「支配／被支配」といった関係性が固定化してしまったうえでの対立を、対話によって崩すのは容易ではない。

問六、傍線部①「会話」とあるが、その説明として適切でないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、言葉を交わす者同士の共通点が軸となって、言葉のやりとりが進んでいくことが多いといえる。
- 2、役割を演じることで言葉のやりとりはスムーズに進むが、雰囲気を保つために役に徹する必要がある。
- 3、言葉のやりとりが進むようすは、キャッチボールやハーモニー、漫才にたとえることができる。
- 4、結論や正しい方をはっきりさせるのではなく、言葉のやりとりを中断させないことが目的である。
- 5、同じ場を共有する者同士で行われる言葉のやりとりのことで、やりとりを通して関係性を深められる。

問七、《 X 》に入ることをばを本文中から抜き出しなさい。

問八、傍線部②「部屋の中で友人たちと話しているとき、部屋の隅に一頭のゾウがいるのを目にしたとしよう」とあるが、この

ように想定することの筆者の意図として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、見えている世界がちがう相手に、どのように接するのが対話の姿勢であるかを説明しようとしている。
- 2、極端な例を示すことで、会話をするときに心の中で起こっていることを具体的に提示そうとしている。
- 3、会話が弾んでも違和感をおぼえる理由について、自分と相手の視点から解き明かそうとしている。
- 4、見えないものの存在が大きくなることが会話や対話にどう影響するか、多角的に考えようとしている。
- 5、自分にしか見えないものがあるという役割を通して、会話と対話のちがいを明確にしようとしている。

問九、傍線部③「対話はしばしばポリフォニー(多声音楽)にたとえられる」とあるが、その理由を説明した次の文の空欄

【 1 】・【 2 】に入ることを、【 1 】は六字で、【 2 】は十三字でそれぞれ本文中から抜き出しなさい。

それぞれのパートによる【 1 】の重なりで構成されているポリフォニーの特徴が、【 2 】を軸にして話を進めるといふ対話の特徴と重ねられるから。

問十、傍線部④「対話の空間」とあるが、この空間ではどのようなことができるのか。四十字以内で答えなさい。

問十一、本文の内容と合致するものを次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1、ハーモニーとポリフォニーの違いを理解することで、会話と対話で重要な役割が違うことが理解できる。
- 2、価値観が多様化している中では、対話によって互いの役割を明確にし、理解を深めることが重要である。
- 3、傷つかずに生きることができないので、傷ついても回復できるようにするために対話をするべきである。
- 4、何者も排除しないし、一体化もしないので、ジャンルはあらゆる生き物の生存に適した場だといえる。
- 5、場の雰囲気がかわれ、言葉のやりとりがとぎれたときこそ、対話をはじめるとに最も適した機会である。
- 6、SNS上での会話は、互いをよく知らない者同士で進められるので、議論に発展しないことが多くなる。
- 7、議論は互いに主張を述べながら結論を出すもので、討論は主張をぶつけ合って勝敗をつけるものである。

